

---

# 最後の瞬間

星蘭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最後の瞬間

### 【コード】

N1095A

### 【作者名】

星蘭

### 【あらすじ】

西暦5000年。今、彼は少女と共にいた。

山は唸り、地は揺れ、木々は倒れていった。山からは火が噴出し、海の水は陸を飲み込み、大地が隆起して、または陥没していった。

西暦5000年。

口に出して言えば簡単だが、実際にその年月は人間1人の一生に比べて、途方もなく長い。

しかしそんな年月も、母なる地球の歴史に比べれば、一瞬に満たないほど短い。

今年18歳の彼は高い高い山の上から、混乱の最中にある地表を見ながら、冷たい視線を「それ」におくっていた。

彼の隣に座っている16歳の少女は、微笑みながら「それ」を見ていた。

「それ」とは、この地球を今の状態にまでした、死にいたらしめた、唯一の文明と高度な知恵を持った生物の死にゆく姿。つまり、人が死にゆく光景。木の下敷きになり、山からの溶岩に骨も無くなるほどに焼かれ、海に飲み込まれ。

「自業自得だ」

彼はボソリとつぶやいた。

「いいんじゃない？それだったら。大丈夫よ。人間以外の生物には、もしもの時にでも生き残ろうとする生命力があるもの」

少女はクスクス笑いながら言った。

「もう、3000年以上も前から気づいていたのに、何もしていないんで。結局死ぬはめになっている」

少女はそこまで言うのと、コホコホと咳をした。

「ここまで長く、進化もしないで滅んだ生き物も、少ないんじゃないか？」

彼はそう言って、咳をする少女を心配そうに見る。

「そうね」

そう言う少女の口から流れ出たのは、血だった。血は顎から滴り落ちた。

「もう、私たちも死ぬのね」

少女は自分の手についた血を、じっと見て言った。

「この汚れた空気のせいで、肺がもうダメなのね」

彼も少女も、同じ病に侵されていた。汚れた空気中に混じった毒が、身体の特に空気を吸うべく肺を少しずつ溶かす。

「もう、お別れか」

地震で彼と少女のいる山が大きく揺れた。

「うん」

少女は少し寂しそうに言う。

もしこんな事がなければ、2人は普通に愛し合えて、幸せになれたのかもしれない。でももう、ムリなのだろう。

彼は最後に少女にキスをした。

それが彼の最後の瞬間だった。

死ぬ間際の、最後の瞬間だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1095a/>

---

最後の瞬間

2011年1月14日14時26分発行